



～病院だより～ 愛・レター



愛・レター
19号 2012年12月
クリスマス特別号

文責：
患者サービス向上広報委員会
委員長 齊藤浩之

目次:

事務部の紹介 1 ページ

感染症について 2 ページ

- ・ノロウイルス
- ・インフルエンザ
- ・肺炎マイコプラズマ
- ・RSウイルス
- ・注意すべき事



事務部スタッフ一同



病院窓口(受付・会計)の様子
心あたたまる対応に心がけます。

受付・窓口は病院の顔です・・・

“お大事にどうぞ”窓口では、お帰りになられる患者さまに、そう声をかけさせていただいております。窓口立ち、医療人として患者さまと接するようになり、気づいたことがあります。それは、病院という組織が、医療の制度や仕組みなど細かなルールに沿って毎日動いているということ。もう一つは、そこで働く医師・看護師・薬剤師・検査技師・栄養士・事務・・・

それぞれの役割が1つに繋がることで形作られる「意識」「願い」「思い」の目に見えないチームワークがあるということです。患者さまにはその二つから医療を提供しているのだと日々実感しております。“チーム医療”の一員として他部署と連携・協力をしながら、その想いを“お大事にどうぞ”に込めて受付・会計では皆様と向き合っています。

事務部の紹介

◆ 医事課の仕事・・・入院編

各部署と連携をとりながら、患者さまやご家族さまへの対応や診療の事務的サポート、行政機関への届け出や調整、診療報酬の請求、個人情報の管理等、院内の多種多様な業務を担当しています。

現在「後期高齢者保険制度の一部負担金(病院の会計窓口で支払う金額のこと)」の見直しの問題や、また、2年に一度、診療報酬全体の制度が大きく変わり、次は平成26年と少し遠い話になりますが、このような複雑な制度に関することも皆様にはわかりやすくお伝えすることが大切な業務です。

◆ 医療相談地域連携室

医療の相談や他院との連携や調整業務も行っています。長期入院を余儀なくされている患者さまは、ご本人は勿論のこと、ご家族さまの経済的なご負担や精神的苦痛もあると思います。“生きた会話”で、患者さまやご家族の立場で考え、しっかりと受け止め、気持ちに寄

り添う対応を心かけています。さまざまにご相談もお受けしておりますので、悩んで辛くなる前にお気軽に声をかけてください。世間話も大歓迎です！

◆ 総務課の役割

総務課の病院での役割は、スタッフが働きやすい職場環境とすることです。鉛筆1本の購入から、給料の支払い、経理など、多岐に渡ります。施設や設備などの環境面におきまして、患者さまが過ごしやすい環境を整えることも大切な役割です。蛍光灯の交換から、建物や備品の補修、空調設備の管理などこちらも多岐に渡ります。患者さまや働くスタッフのために、陰ながら支えていく部署になります。

◆ 送迎について

病院までの交通手段が無く不便である方や、車椅子など補助具を使用の方などを対象に、自宅から病院までの送迎を行っています。





クリスマス会を行います

日時:平成24年12月14日(金)

時間:14:00~15:00

場所:2階デイルーム

内容:(1)職員による楽器の演奏

(2)プレゼント配布

ご家族様等の参加もお待ちしております。



交誼会グループ
医療法人 **愛生会病院**

あたたかな心のふれあい
HEART-WARMING



〒078-8340

旭川市東旭川町共栄 223 番 6

Tel 0166-34-3838

Fax 0166-34-2867

ホームページ www.aiseikai-hp.jp

注意しなければならない感染症



●ノロウイルス

感染性胃腸炎を引き起こすウイルスで、年間を通じて発生しますが、特に冬季に流行します。通常、感染1~2日後程に嘔気、腹痛で始まる事が多く、嘔吐、下痢、発熱等を生じ、3日程で回復します。但し、高齢者や乳幼児では重症化する事があり、また、家族内や施設、学校、病院等での集団発生がしばしば見られる事から注意が必要です。治療は水分補給等の対症療法が中心で、抗生剤は無効です。非常に感染力が強く、嘔吐物の処理をきちんとしていないと、乾燥後に舞い上がったウイルスを吸い込んでしまい、感染を生じる事もあります。手洗いはもちろんですが、吐物、糞便の取り扱いが重要で、アルコール消毒は効果が乏しく、85度、1分以上の加熱か、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が必要です。

●肺炎マイコプラズマ

呼吸器感染症を引き起こす細菌です。通常は感染しても気管支炎ですみますが、肺炎となり、重症化する事もあります。小児や若年者の肺炎の原因としては比較的多いものの1つで、1年中みられますが、冬にやや増加傾向となります。感染して2、3週間で痰を伴わない咳、発熱等、所謂“かぜ”と同じような症状で発症します。以前はオリンピック開催年に4年周期で大流行を繰り返してきたため、“オリンピック病”と呼ばれていました。1990年以降大きな流行は見られないものの、2000年以降は確実に増加傾向となっており、注意が必要です。治療には抗生剤を用いますが、肺炎マイコプラズマにおいても、他の細菌と同様、耐性菌の増加が問題となってきています。予防は手洗い、うがい、マスク等になります。

以上、簡単に代表的なもの4つをあげさせていただきます。

共通して言えるのは次の様な事です。

- ◆ “通常は”それ程は重症化しない事。
※但し高齢者、乳幼児、基礎疾患のある患者さん等は注意が必要です。
- ◆ 発熱、咳、嘔吐、下痢等の症状がある場合は人にうつす可能性があると考え対処する事。

●インフルエンザ

急性上気道炎(中心に)を引き起こすウイルスで、最近“パンデミック(世界流行)”や“新型”等の話題で耳にする事も多くなっていると思います。通常、感染3日程で、発熱、全身倦怠感等で始まり、咳嗽、鼻汁等を生じます。症状的には所謂“かぜ”と同内容ですが、通常“かぜ”より重く、全身性の症状が目立つ事が多いです。診断には現在、迅速抗原検査がありますが、ある程度時間がたち、ウイルス量が増えないと陽性結果が出ない場合があります。また、治療は、従来から行われている対症療法と抗ウイルス薬による治療がありますが、抗ウイルス薬の場合、発症後48時間以内の使用が重要です。予防にはワクチン、手洗い、マスク、うがいあげられます。

●RSウイルス

冬季に流行する呼吸器感染症を引き起こすウイルスの代表的なもの1つです。生涯何度も感染を繰り返しますが、全ての人が2歳までに少なくとも1度は感染すると言われてます。感染力は強く、汚染されたテーブルでは6時間、手についたウイルスは30分感染する力を持っていると言われてます。感染後4~6日後、発熱、鼻汁等で発症します。多くは“かぜ”と同じような症状のみで軽症ですみますが、場合によっては細気管支炎や肺炎を生じる事もあります。治療は対症療法が中心で特効薬はなく、抗生剤も無効です。ワクチンは無いため、予防は、手すり等の接触場所のアルコールや塩素系の消毒剤による消毒、流水・石ケンによる手洗い(アルコール製剤も有効です)、マスク等になります。

- ◆ 予防には、手洗い、うがい、マスク等が基本である事。

※ワクチンがある場合はワクチンが第一となります。

- ◆ マスクは患者さん本人のマスクも大切です。
- ◆ ノロウイルスのようにアルコールが無効なものには注意が必要です。

[記事提供]

診療部長 櫻井 忍

日本医師会認定産業医

日本内科学会専門医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医